

口腔科学演習（向井義晴）

Seminar of Oral Science (Yoshiharu Mukai)

キーワード

- ① 口腔科学
- ② フレームワーク
- ③ グループワーク
- ④ リンクマップ
- ⑤ テーマ発表
- ⑥ 研究発表
- ⑦ 中間発表
- ⑧ ディベート

授業概要

疾病要因を形態、機能、病態、社会的側面から学際的に究明する科学と技術を学修し、俯瞰的に生命現象をとらえる能力を身につけることを目的に開講する。

本演習は、4つの項目で構成されている。

演習①概論：科目の概要について受講する。

演習②テーマ発表：歯科医師としてあるべき姿、現代歯科医療の問題点について現状分析並びに論理的思考過程をもって、個人・グループセッションの中で考察し、提起したテーマに沿ってプレゼンを行い、担当教員による評価を受ける。

演習③研究発表：これまでの研究成果をまとめ、各自の研究成果についてプレゼンを行い、担当教員による評価を受ける。最終的に中間発表のポスターを完成させ中間発表を実施する。

演習④ディベート：与えられたテーマについて異なる立場（肯定、否定）に別れ、即興型ディベートを行いディベートについて体現する。その後、グループワークにて現状を分析、リンクマップを作成し討論の立論を完成させる。作成したリンクマップにより作戦会議を行い試合に望む。ディベート試合はテーマ出題者の評価を受ける。その際、試合の勝敗については、ジャッジ役の学生が決定する。

授業科目の学修目標

口腔科学における各分野の特徴を生かした演習を行うことにより、疾病要因を形態、機能、病態、社会的側面から学際的に究明する科学と技術を修得し、俯瞰的に生命現象をとらえる能力ならびに口腔科学における俯瞰的な判断を行う素養を身につける。

授業計画

- ① 導入 1コマ 山本龍生
- ② テーマ研究について 1コマ 向井義晴
- ③④ 個人研究 2コマ 向井義晴
- ③ テーマ発表（個人） 1コマ 泉 雅浩 中村州臣 坂口和歌子
- ⑥⑦⑧⑨ グループワーク 4コマ 高橋俊介
- ⑩⑪ テーマ発表（グループ） 2コマ 星 憲幸 小牧基浩 武藤徳子
- ⑫⑬ 個人研究 2コマ 向井義晴
- ⑭ 研究発表 1コマ 猿田樹理 田中香衣 岩下英夫
- ⑮ 研究発表 1コマ 富山 潔 宋 文群 黒田英孝
- ⑯ 研究発表 1コマ 吉野文彦 今泉うの 浅里 仁
- ⑰ 研究発表 1コマ 渡辺清子 吉田彩佳 室町幸一郎
- ⑱ 研究発表 1コマ 高橋聡子 大橋 桂 赤坂 徹
- ⑲⑳ 中間発表 2コマ 向井義晴
- ㉑ ディベートについて 1コマ 向井義晴
- ㉒㉓ 即興型ディベート 2コマ 向井義晴
- ㉔㉕㉖㉗ グループワーク 4コマ 向井義晴
- ㉘㉙ ディベート試合 2コマ
第1試合：山本龍生
第2試合：橋本達夫
第3試合：青山典生
- ㉚ 総括 1コマ 山本龍生

教科書および参考書

配布プリント、指定、関連学術論文

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

これまでの研究活動により得られた口腔科学に関する知識、ならびに疾病要因の形態的、機能的、病的、社会的側面に関する知識が必要である。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 学際的口腔科学の概要を説明できる。
- ② 論理的思考のもと問題分析が出来る。
- ③ グループディスカッションにより他者と協力しコミュニケーションスキルを向上させる。
- ④ グループワークにより意思決定力を向上させる。
- ⑤ 自分の研究成果を発表するとともに中間発表ポスターを完成させ中間発表できる。
- ⑥ 自分の意志に関係なく与えられたテーマでディベートできる。
- ⑦ 上記を総合演習として実践できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	35%	25%	0%	35%	5%

評価の要点

- ・各演習②～④の項目ごとに評価者（大学院教員）による質疑応答（口頭試問：35%）とグループワーク等による課題内容（その他：5%）を含め総合的に評価する。
- ・成果発表は、本演習で身についたことについての発表の内容を総合的に評価する。
研究発表・ディスカッション・ディベート：25%

理想的な達成レベルの目安

口腔科学演習の理想的な達成レベルは、総計として80%以上とする。